「代用附属学校」制度についての調査

― 松江キャンパスにおける地域教育連携のあり方検討として ―

高橋泰道・梶谷朱美・岩田英作

1

申請の背景・動機

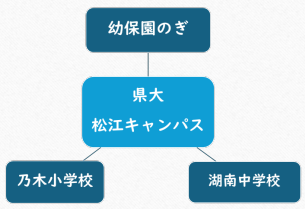
島根県立大学松江キャンパスは、大学近隣の松江市立幼保園のぎ、松江市立乃木小学校、松江市立湖南中学校と連携協定を結んで久しく、本学の学生が読み聞かせに出かけたり教員が出前授業に出かけたりと、活発な交流・連携を続けてきました。

2018年(平成30年)に4年制人間文化学部が設置されてからは、従来の保育士養成に加え、小学校・中学校(国語・英語)・高校(国語・英語)の教員養成が始まり、乃木小学校や湖南中学校とは教育実習をはじめとしてさらに連携が深まりつつあります。

そうした流れの中で着眼したのが代用附属学校という制度です。

代用附属学校が本邦で法制的に位置づけられたのは1907年(明治40年)のことで、1世紀以上の歴史を持ちます。しかしながら、現在、代用附属学校について日頃見聞することはきわめて少なく、代用附属学校と附属学校の違いについても詳細を審らかにしません。

本学松江キャンパスと近隣の学校との連携強化の方策として代用附属学校という制度ははたして有効なのか。本学側と学校側の双方にとってメリットあるいはデメリットがあるとすればいかなるものか。いずれにしても、まずは基礎的な作業として代用附属学校について理解を深める必要があります。



連携強化に
代用附属学校化は
はたして有効か？

2

申請の目的・方法

【目的】

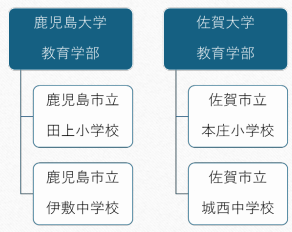
大学と学校の間で代用附属学校の制度が実際にどのように運用されているか、その実態を調査します。

【方法】

西日本においては、国立大学法人の鹿児島大学と佐賀大学の2大学で代用附属学校の制度を有することが確認できました。両大学とも、教育学部の附属学校とは別に、小学校と中学校をそれぞれ1校ずつ代用附属学校としています。

本申請では上記の大学、小学校、中学校を訪問し、以下の項目について聞き取りを行います。

①代用附属学校設置の経緯
②文部科学省、教育委員会の関与、法制的なルールの関与
③代用附属学校ならではの具体的内容(教育実習、教員間の交流等のあり方)
④代用附属学校制度の運営・財政体制
⑤大学が代用附属学校を有することのメリット、小学校・中学校が代用附属学校となることのメリット
⑥代用附属学校制度についての意見、課題、その他



3

鹿児島大学　代用附属学校の設置経緯

鹿児島大学は、附属学校だけでは地域社会の教育ニーズに対応しきれない状況に直面していました。少子化による生徒数の減少、教育環境の変化、そして地域における多様な学習ニーズの高まりなど、複数の課題が複雑に絡み合っていました。これらの課題に対応し、大学と地域社会の連携を強化し、教育研究の質を高めるため、代用附属学校という制度の導入が決定されました。

この制度は、教員養成や教育研究の補完的な役割を担うだけでなく、地域に密着した教育を提供する公立学校の役割と、大学の教育研究を効果的に結びつけることを目指しています。

具体的には、附属学校ではカバーできない地域特有の教育課題への対応、実践的な教育研究の場を提供すること、そして大学と地域社会の双方にとって有益な人材育成を促進することが目的として掲げられました。

この取り組みを通じて、鹿児島大学は地域社会の教育発展に貢献し、同時に教育研究の更なる深化を図ろうとしています。

4

附属学校と代用附属学校の違い

附属学校

- 鹿児島大学が直接運営する学校で、大学教員が直接教育に関わることが多く、最新の教育研究成果を直接実践に反映しやすい環境が特徴です。例えば、独自のカリキュラムや高度な設備を活用した授業展開などが挙げられます。
- 教育研究の拠点として、大学における教員養成や教育研究に大きく貢献しています。学生の教育実習の受け入れや、大学教員による研究活動の場を提供することで、質の高い教育の研究開発を推進しています。
- 先進的な教育実践の場として、新しい教育方法や教材開発のテストベッドとしての役割を担います。これにより、教育現場におけるイノベーションを促進し、より効果的な教育方法を模索しています。
- 大学と一体化した研究活動が盛んで、教育研究に関するデータ収集や分析が容易に行えます。そのため、教育効果の測定や改善策の検討を迅速に進めることが可能です。例えば、生徒の学習成果に関するデータ分析に基づいた授業改善などが行われています。

代用附属学校

- 公立学校であり、大学との連携の下、大学教員による教育実習の受け入れや研究協力などを行っています。地域社会に密着した教育活動を展開できる点が特徴です。
- 大学の教育実習や研究活動を積極的に支援し、学生の教育現場での実践経験を積む機会を提供しています。大学教員も、代用附属学校の授業参観や共同研究を通して、実践的な知見を深めることができます。
- 地域社会に根差した教育を展開することで、地元のニーズを反映した教育活動を展開し、地域社会への貢献に繋げています。例えば、地域住民との交流イベントや地域課題解決のためのプロジェクトなどに参加しています。
- 地元の教育ニーズを反映した実践的な教育を実践することで、多様な学習ニーズに対応できる教育環境を提供しています。例えば、地域独特の文化や歴史を学ぶ授業や、地域産業に関連した職業体験などを実施しています。

5

地域に根差した教育を目指す代用附属学校の特徴

地域との連携

地域社会との緊密な連携を図り、地域資源を活用した教育活動やボランティア活動などを積極的に展開しています。

具体的には、地元の企業や団体と連携したインターンシッププログラムの実施、地域住民との交流イベントの開催、地域課題解決のためのプロジェクトへの参加などを通して、生徒たちが地域社会に貢献する機会を提供しています。また、地域の歴史や文化を学ぶ授業を取り入れることで、生徒たちの郷土愛を育んでいます。

実践的な教育

地域社会の課題やニーズを踏まえ、実践的な教育プログラムを開発し、生徒の主体的な学びを促進しています。

例えば、地域企業との連携による課題解決型の学習、地域住民との協働による地域貢献活動、地域社会で必要とされるスキルを習得するための職業体験学習などを通して、生徒たちの社会性や実践力を高めています。また、地域課題解決に焦点を当てた探究活動を取り入れることで、生徒たちの探究心や問題解決能力を育成しています。

教員養成

大学と連携した教員養成プログラムを実施し、将来の教育者育成に貢献しています。大学教員による指導・助言、教育実習の受け入れ、共同研究の実施などを通して、現場での実践的な教育力を養うことができます。

また、代用附属学校での教育実践を通して、教員志望の学生が実践的な指導力を磨く機会を提供し、質の高い教育者の育成に貢献しています。
さらに、大学と連携した研修プログラムや研究会などを開催することで、教員の専門性向上にも力を入れています 。

6

佐賀大学　代用附属学校制度とは

佐賀大学は、教員養成のための教育実習を充実させるため、地域の公立学校を代用附属学校として指定しています。

この制度は、昭和24年の教育学部設立時に始まりました。当初は本庄小学校が最初に指定され、その後西与賀小学校や城西中学校が追加されました。佐賀大学の代用附属学校制度は、地域社会との連携を深めながら、教育実習生が実践的な指導力と教育研究能力を磨くための重要な役割を担っています。

この制度を通じて、学生たちは実際の学校現場で教育活動に参加し、指導経験を積むことができます。また、大学の教員と協力して教育研究を行う機会も得られます。代用附属学校は、大学の教育研究活動に直接的に貢献し、質の高い教員養成に大きく貢献しています。さらに、代用附属学校との連携は、大学と地域社会とのつながりを強化し、地域貢献にもつながっています。

この制度は、単なる教育実習の場にとどまらず、大学と地域社会の相互発展に寄与する重要な仕組みとなっています。佐賀大学は今後もこの制度を継続・発展させ、より質の高い教員養成を目指していく予定です。

7

代用附属学校設置の経緯

教員養成の必要性

昭和24年、佐賀大学教育学部が設立された際、質の高い教員を養成するための実践的な教育実習の場が不可欠でした。当時の日本は戦後の復興期であり、高度経済成長に向かう社会情勢の中で、多くの優秀な教員が必要とされていました。

そのため、佐賀大学は地域社会との連携を強化し、教育実習の受け入れ体制を迅速に構築する必要がありました。

既存の教育機関との協力関係を築き、学生が実践的な指導力を身につける機会を確保することが、教育学部設立の重要な課題の一つでした。

この課題に対処するために、代用附属学校制度の導入が決定されました。

本庄小学校の指定

佐賀大学教育学部から最も地理的に近く、アクセスが良いという点で本庄小学校が最初の代用附属学校として選ばれました。

しかし、地理的な近さだけでなく、本庄小学校の教育環境も重要な選定理由となりました。当時から教育水準が高く、教育熱心な教職員が揃っていたこと、また、校舎や設備も良好な状態であったことが考慮されました 。

さらに、本庄小学校の学童数や、学校運営の状況なども詳細に調査され、教育実習生にとって最適な環境であると判断された結果、指定に至りました。学校側の協力体制も、選定において大きな要素となりました。

制度の拡充

本庄小学校の指定後、佐賀大学は代用附属学校制度の拡充を図りました。
教育実習生の増加や、より多様な教育現場での経験を積ませることを目指し、西与賀小学校と城西中学校が追加指定されました。

西与賀小学校は都市部、城西中学校は郊外部に位置しており、それぞれ異なる地域特性を持つ学校を選択することで、学生は様々な教育ニーズや環境に対応できる力を養うことができました 。

これらの学校は、大学との連携に積極的で、教育実習生への指導体制がしっかり整備されていることも選定理由の一つです。この制度の拡充によって、より実践的で充実した教育実習プログラムを提供できるようになりました。また、地域社会との連携も強化され、大学と地域社会の相互発展に大きく貢献しました。

8

附属学校と代用附属学校の違い

附属学校

大学が直接運営する学校です 。

選抜試験を経て入学する生徒は、大学が設定する独自のカリキュラムに基づいた高度な教育を受けます。教員は大学と密接に連携し、最新の教育研究成果を授業に反映させ、実験的な教育手法を取り入れることも珍しくありません。高度な専門性と経験を持つ教員が多く、学生に対する指導体制も万全です。

附属学校は大学における教育研究の中心的な役割を担い、新しい教育方法や教材の開発、教育効果の検証など、様々な研究活動が行われています。

また、大学院生や教員養成課程の学生にとって、実践的な教育現場での学びの場を提供することで、将来の教員育成にも貢献しています。

代用附属学校

地域の公立学校で、大学との協力関係のもと、教育実習や教育研究の場として活用されています。

大学が直接運営するわけではないため、附属学校とは異なる独自の教育体制を維持しながら、大学と連携することで、教育の質向上や教員の研修機会の充実を図っています。
代用附属学校は、大学にとって、多様な教育現場での実践的教育研究を行うための貴重な場であり、学生は様々な地域特性を持つ生徒との交流を通して、より実践的な教育経験を積むことができます。

また、大学と地域社会の連携強化にも貢献し、地域社会に貢献する人材育成にも繋がります。教員にとっても、大学からの指導や研修を通して、専門性を高め、教育スキルを向上させる機会が得られます。